

Elementary school



写真上 3、4年生の自由形。応援に来た父母らは、その泳ぎから子どもたちの成長を感じていた様子でした
写真下 プールサイドで競技の順番を待つ間、一生懸命友だちを応援する児童ら

夏休みの練習の成果を披露

夏休みも終わり、日焼けした元気な姿で登校を始めた町内の小学生。プールも終わりに近くなり、町内の小学校では、水泳記録会などが開かれました。

翁島小学校の水泳記録会は8月31日、同校のプールで開かれ「全力で目指せ！自分の一等賞」をスローガンに、全校児童86人が自己記録の更新を目指しました。

それぞれのクラスに分かれて全力を尽くす児童の姿に、クラスメイトや応援に駆けつけた父母からは大きな声援が送られました。

記録会終了後の感想発表では、代表の児童らが「頑張って50泳げた」「今までで一番速く泳げたと思う」などと発表。渡部仁一教頭は「今日のスローガンのとおり、みなさん本当によく頑張った。この頑張りを普段の生活の中にも生かしてください」と感想を述べました。

High school



写真上 フリーマーケットで接客する猪高生。店の周りには元気な笑顔があふれました
写真下 もくもくとフライパンを振り、モグモグとハンバーガーを食べ、まつりを盛り上げた大川原会長

猪高生が磐梯まつりで活躍

7月末に開催された磐梯まつり。そのおまつり広場に猪苗代高校の生徒会、JRC委員会の生徒ら約20人が出店し、まつりの盛り上げに一役買いました。

出店は、猪高生と町商工会青年部員との意見交換会によって決まったもの。青年部員らと一緒に夏野菜の Pasta やかき氷の販売、フリーマーケットやバルーンアート体験コーナーなどに取り組み、好評を博しました。

生徒会の大川原伸幸会長は「最初は戸惑いや緊張があったが、一日目でだいぶ慣れた。卒業生には社会人になって商売をする人もいるので、この経験や商工会の人とのつながりは財産になると思う。後輩にも続けてほしい」と感想を述べました。

佐藤剛太郎町商工会青年部長は「商売の難しさなどに触れるいい経験。地域の商工会として、これからもこうした交流を続けていきたい」と述べました。

スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO



写真上 We love(ハートマーク)福島と、一人一人が手書きした激励メッセージ入りの横断幕を贈ってくれた矢板東高1年生の皆さん
写真下 生徒を代表してあいさつした仲松なおきさん(左)

矢板東高から激励の横断幕

栃木県立矢板東高校の1年生約200人は7月30日、町役場を訪れ、大震災に見舞われた福島県や本町を激励しようとメッセージ入りの横断幕と千羽鶴を寄贈しました。同校は毎年、会津地方で教育キャンプを実施しており、44回目を迎えた本年も28日から2泊3日の日程でキャンプを実施しました。

贈呈式では大島明教頭が「福島の皆さんの協力のおかげで、大震災や原発事故後にもかかわらず充実したキャンプになった。恩返しとエールの意味を込めて贈呈します」とあいさつ。生徒代表の仲松なおきさんが「避難生活や風評被害のことを知った。今回のことを忘れず、福島の皆さんとともに学びたい」と述べ、激励メッセージを書き込んだ横断幕と千羽鶴を前後町長に手渡しました。

前後町長は「皆さんの若い力、エネルギーで猪苗代に活力をいただいた」とお礼の言葉を述べました。



写真上 工事の安全を祈り、かけ声とともに勢よくくわ入れをする前後町長
写真下 町教育委員会、工事関係者や地域住民など約50人の関係者が工事の安全などを祈願しました

園舎増築工事の安全を祈る

町内川桁の川東地区認定子ども園幼稚園舎増築工事の安全祈願祭・起工式は8月10日、川桁保育所隣の現地で執り行われました。式では、前後町長や工事に当たる会津土建の菅家洋一社長らがくわ入れをした後、参加者の代表らが玉串をささげ、工事の安全を祈願しました。

前後町長は「ますます多様化する子育てのニーズに応え、安心して子どもを産み育てられる支援をしたい。施設にはその役割の一端を担ってほしい」とあいさつを述べました。

幼稚園舎の構造は木造平屋建てで、延べ床面積は約850平方メートル、川桁保育所と合わせると約1400平方メートルになります。自然の光や風を十分に取り入れられるように考慮したほか、木のぬくもりを感じさせる建物になっています。来年4月からの入園に備え、3月までの完成を目指します。

High school

Kindergarten